

## 5. 国際交流について(本学入学後について伺います)

現在の日本は、政治、経済、文化のすべてを通して、国際化が進み、次代を担う学生には一層の国際性が求められています。そんな中、海外留学を目指さない学生の増加、海外勤務を目指さないなどの内向き思考が指摘されています。

香川大学は、平成21年4月に国際交流の窓口機関としてインターナショナルオフィスを設置し、情報収集及び発信の一元化、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進し、本学並びに地域の国際交流を推進しています。

前回のアンケート調査(平成21年)は、インターナショナルオフィスが設置される前に行われています。今回のアンケート調査の結果には、香川大生の国際交流の面で、この2年間のインターナショナルオフィスや全学の活動も反映しているものと思われる。

今回の調査では、1)海外渡航について、2)留学生との交流について、3)海外留学について、それぞれアンケートを行っています。項目1)からは海外渡航経験者が前回の調査に比較して、大幅に低下したと、海外渡航をしなかった学生の多くは経済的、時間的制約によるものであることが分かります。項目2)からは香川大生の3割以上の学生が留学生と交流を持っていることが分かります。一方、項目3)からは30%の香川大生が留学を希望していること、経済的、時間的制約を乗り越えれば60%以上の学生が希望していることが分かります。

多くの香川大生は、国際性を身につけることには積極的な意思と希望は持っているといえますが経済的、時間的制約からそれらを実現できずにいます。

香川大学には、これらの経済的、時間的制約を取り払う支援体制の一層の充実が望まれ、また、学生にはこれらの制約を乗り越える一層の高いモチベーションを育てていただきたいこと、そのための大学としての方策が望まれます。

### (1)海外渡航について

問33. 入学後、海外渡航をしたことがありますか。

#### [1]現状

入学後の海外渡航経験者は10%です。ちなみに、アンケート回答者の出身県の50%を占める香川県と岡山県の海外渡航経験者は、人口比でそれぞれ約7%、約8.5%、日本全体では約13%です。

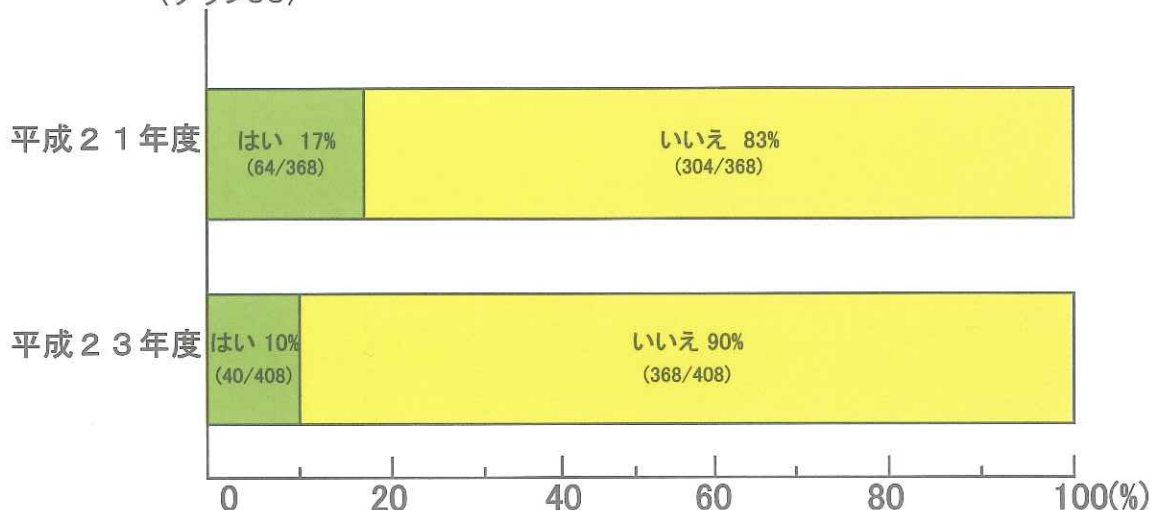
前回の調査と比較して7%低下していますが、アジア地域への渡航者減少がそのまま反映しており、タイでの大洪水も影響している可能性があります。

#### [2]課題(問題点)

学生の国際性を高める立場からは憂慮すべき状況といえます。

海外渡航を経験していない理由は、経済的や時間的に余裕のないことであり(問37)、学生生活の経済状況の悪化が反映しているといえます。大学あるいは関連機関、民間などからの経済的支援やそれらの情報をきめ細かく紹介することが望まれます。

〈グラフ33〉



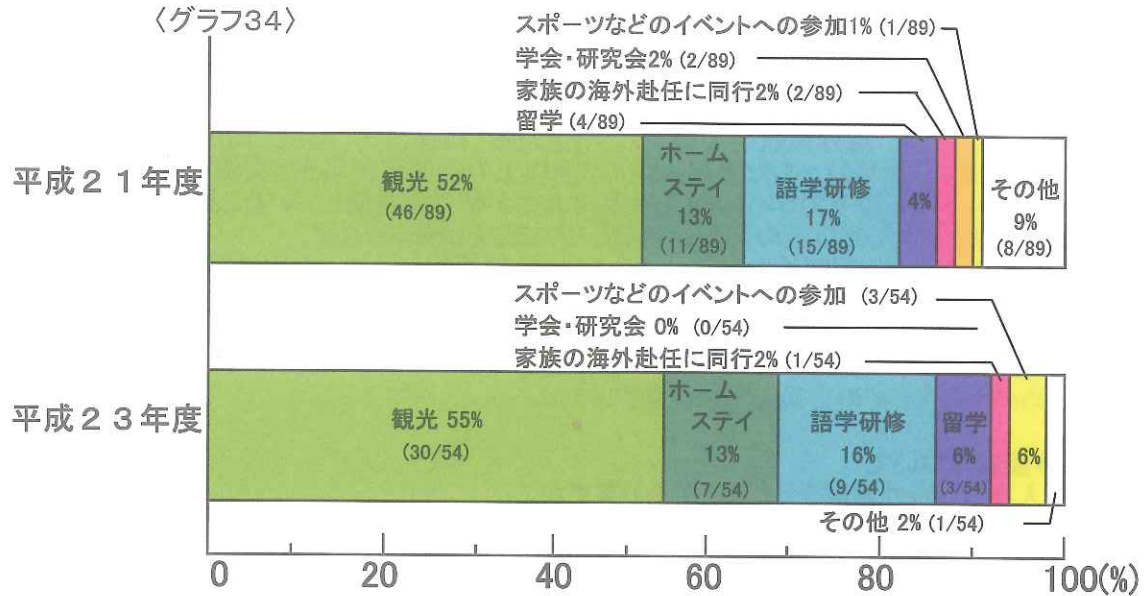
問34. あなたが海外渡航をした主な目的は何ですか。〔複数回答可〕  
〔問33で「はい」と答えた人のみ回答してください〕

〔1〕現状

海外渡航経験者の内訳は、観光55%が最も多く、次いで語学研修、ホームステイ、留学、スポーツなどのイベントへの参加となっています。

前回の調査と比較して、その内訳の傾向はほぼ同じです。スポーツなどのイベントへの参加が増加していますが、学会・研究会参加者が0%となっています。

学生の経済的負担、カリキュラムやその密度、あるいは時間的負担を考えれば、主な渡航目的が観光であることは当然といえます。



問35. 問34の質問で「8. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

・ ボランティア活動

問36. どの地域へいきましたか。〔複数回答可〕  
〔問33で「1」と答えた人のみ回答してください〕

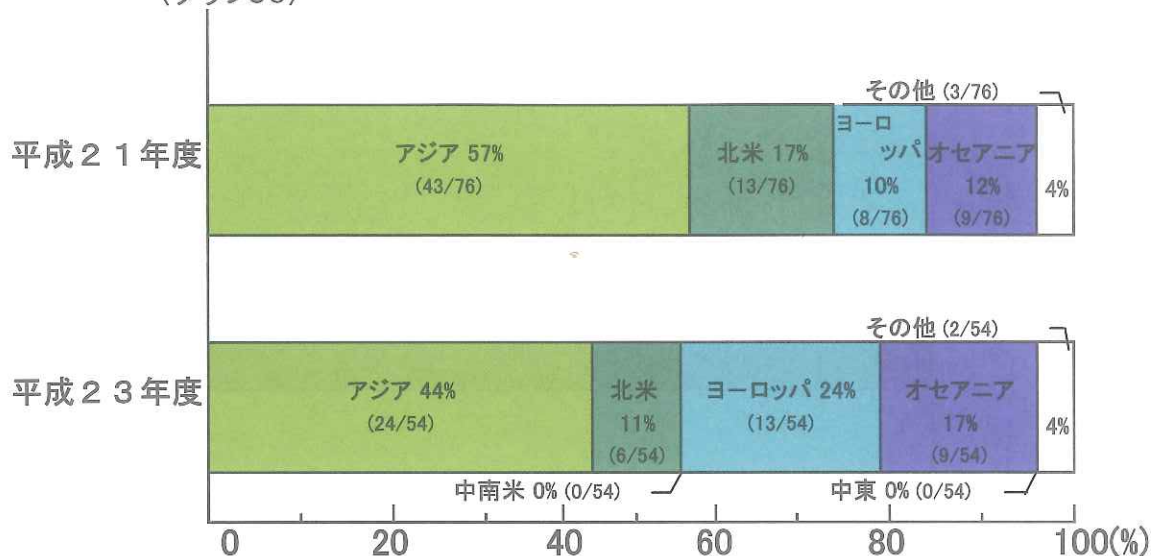
〔1〕現状

最も多い地域はアジア44%であり、次いでヨーロッパ24%、オセアニア17%、北米11%の順となっています。経済的、時間的負担、近年の経済、文化交流等の発展を考えればアジア地域への渡航者の割合が多いのは当然といえます。

前回の調査と比較して、アジア地域が最も多いのは同じですが13%も低下しています。2位だった北米も低下し4位となっています。一方、ヨーロッパ地域は割合で2倍以上、絶対数でも増加し、オセアニアも5%増加しています。

学生にとって経済的、時間的に比較的無理なく渡航可能なアジア地域が大幅に低下しています。最近の経済情勢の悪化やタイの大洪水などが、海外渡航をしていたこの層の学生に波及している可能性があります。一方、ヨーロッパ地域は比較的負担が大きいと思われ、目的意識をはっきり持った学生によるもの、あるいは、何らかの経済的支援があるのかもしれませんが。

〈グラフ36〉





問37. 海外渡航をしたことがない理由は。  
 [問33で「いいえ」と答えた人のみ回答してください]

[1] 現状

海外渡航したことがない理由としては、「資金がない」55%が圧倒的に多く、次いで「興味がない」、「時間がない」の順となっています。

前回の調査と比較して、「資金がない」が7%増加しており、学生生活全体の経済的環境の悪化が背景にあるものと思われます。「時間がない」や「興味がない」は、ほぼ同じ程度です。その他の内容(問38)は、前回の調査と同様にいわゆる語学力や治安への不安がありますが、割合は低下しています。

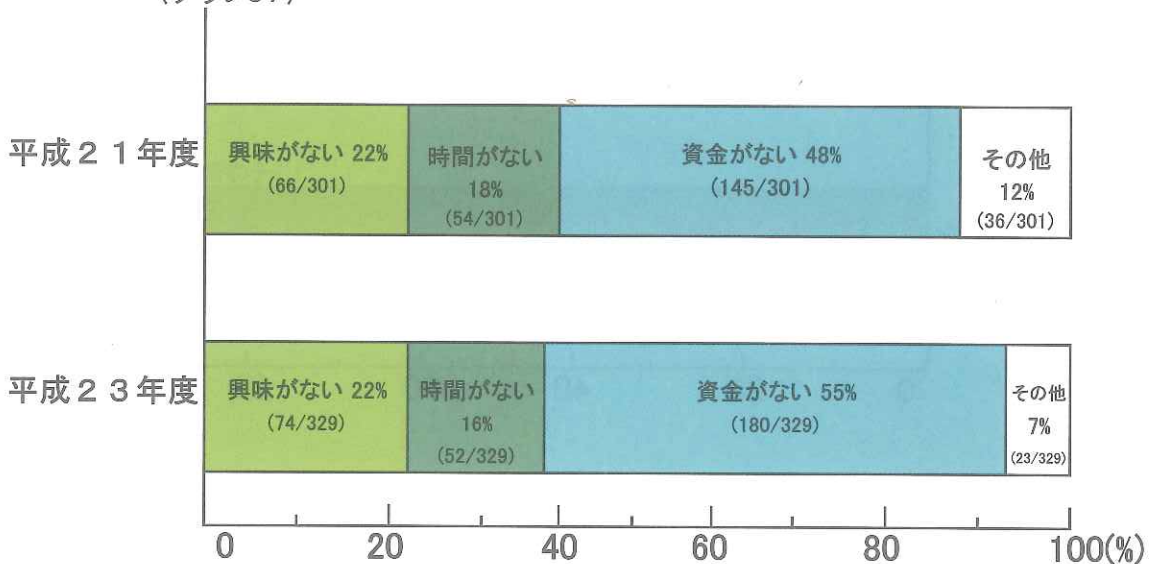
[2] 課題(問題点)

学生にとって海外渡航はかなりの経済的負担となります。大学あるいは関連機関、民間団体の経済的支援や情報を積極的に紹介することも重要と思われます。また、学部によるカリキュラム密度の違いもありますが、先輩たちの経験の蓄積も重要と思われます。

一方、興味がない22%をどう捉えるかは今後の課題といえますが、国際性を求められる昨今ですので、興味としての一歩からでも足を踏み出す姿勢が望まれます。

その他の内容(問38)については、今後の実践的な語学教育、体験交流、正しい情報提供などを通じて克服し、一層減少させることが期待されます。

〈グラフ37〉



問38. 前の質問で「4. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

- ・ 治安や自分の語学力など不安な部分があるため。
- ・ 興味がなく時間もなく資金もないことに加え、海外の治安に不安がある。
- ・ 興味はあるが、勇気がない。
- ・ 来年の夏休みに語学留学予定のため。
- ・ 海外渡航してみたいが、どこに行けば自分のためになるのかが分からない。
- ・ 海外に対して不安がある。言葉が通じるのか、犯罪に巻き込まれないかが懸念される。
- ・ 時間や資金がないというのも理由ですが、一番の理由としては一緒に行く人がいない。

## (2) 留学生との交流について

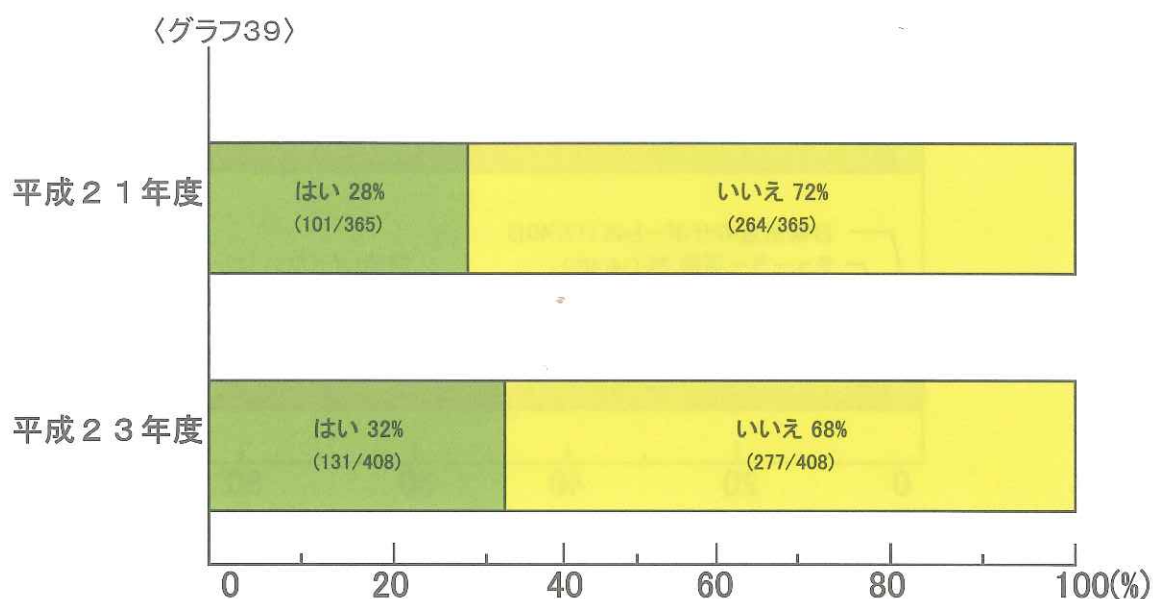
問39. 留学生や地域の外国人との交流はありますか。

### [1] 現状

留学生や地域の外国人との交流のある学生は32%です。高く評価されていていいように思います。前回の調査と比較して4%増加しています。学生自身の積極さや、全学的な取り組みを反映しているものと思われます。

### [2] 課題(問題点)

問40のアンケートからは、交流外国人は主に香川大学に在籍する留学生と思われます。ちなみに、香川大学の留学生は約160名、その他の県内大学・専門学校の留学生約300人、香川県在住の外国人約8400人です(2010年)。視野を大きく広げれば香川県内にも多くの外国人がいます。学生と外国人との交流についても、地域に根ざした香川大学を視点に入れた一層の工夫が望まれます。



問40. どのような交流をしていますか。〔複数回答可〕

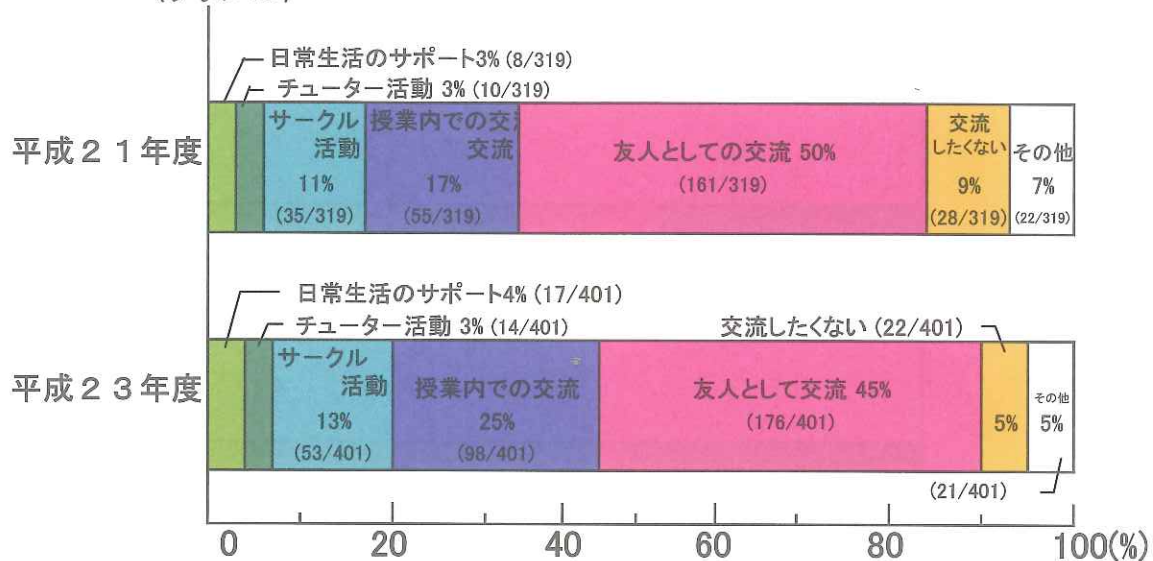
また、交流をしたことがない人は今後どのような交流がしたいですか。

〔1〕現状

「友人としての交流」45%が圧倒的な割合を占め、次いで「授業内での交流」、「サークル活動」を通しての順となっていますが、一方、交流したくない5%となっています。

前回の調査と比較して、「授業内での交流」が8%増加し、「交流したくない」学生の割合がほぼ半減しています。全学的な語学教育等の充実を反映していると思われます。また、「サークル活動」や「日常生活のサポート」を通じた交流も僅かに増加しています。一方、友人としての交流が5%低下しています。授業やサークル活動を越えた、個人レベルでの幅広く、深い交流が少なくなっているのかもしれませんが。

〈グラフ40〉



問41. 前の質問で「6. その他」を選択した方は、その内容を記述してください。

〔1〕現状

その他の内容(問41)としては、大学内の教育、研究、サークル活動を通じた交流と重複するものも含まれていますが、バイト先などでの学外での積極的な交流もみられます。

- ・ 研究室での交流。
- ・ アルバイトでの交流。
- ・ 所属研究室にて後輩と先輩との関係である。
- ・ インターンを通して、色々な国の方とコミュニケーションを取る機会があった。
- ・ 授業内のほか、学校行事での交流。
- ・ 施設での外国語講座にて。
- ・ 医学部で受け入れたブルネイ学生のサポート。
- ・ バイト先の語学の先生と会話する程度(お酒を飲みながら話をする)。
- ・ 部活動で武道に興味がある外国人の方が稽古に参加されることもある。